

日本学術振興会賞を受けた
富山大工学部教授

つばきのりたつ
椿 範立さん



専門はエネルギー、触媒化学だ。独自開発の触媒を使い、天然ガスを軽油やガソリンなどの液体燃料に変換する技術

賞がもらえてうれしい」と満面の笑みを浮かべる。

「自分が流行をつくり一番に」

人のさけ

石油に代わる新エネルギーは、世界最高の性能を示し実用化。さらに廃木材などの生物資源から出るガスを、高効率でメタノールに転換する触媒を開発するなど、生み出した技術はいずれも「世界最先端」と評価されている。「石油がなくなっても、人々が安心して暮らせるよう、新技術を開発し続けた」

を経て、十三年に三十五歳で富山大教授となるまで東大助教を務めた。

研究のモットーは「流行を追わない」。他人が既に実績を挙げている分野ではトップにはなれないという。「自分が流行をつくり一番になりたい。自分の専門分野では日本一、世界でトップ3に入っている」と強い自信がある。

十社以上の企業と共同研究を進め「実力さえあれば、地方のハンディは感じない」ときっぱり。生活環境が良い富山は「研究に専念できる絶好の場所」と話す。

中国湖南省出身。中国科学技術大学を卒業後、平成元年に東京大工学系研究科修士課程に進むため来日した。同博士課程

(筒口義裕社会部記者)